

<p>【園の教育目標】</p> <p>心も体もたくましい元気な子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丈夫な子 ・仲良く遊ぶ子 ・個性豊かな子 	<p>【令和6年度の園評価より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の遊びの継続の延長上に行事（運動会・発表会・作品展など）があるという意識をもち、見直しをもって取り組んでいけるよう長期的な計画を立案する。 ・ねらい達成に至るまでの過程が大切であるということを確認し、環境と援助について職員間で語り合う時間を確保する。 ・子ども達の主体的な活動が、より充実したものになるよう、日々の活動や遊びのねらいを意識したサークルタイムの在り方を工夫する。 ・個の特性に応じた支援ができるよう、子どもの発達について多面的に考察をして保護者と願いを共通理解をする。
--	--

4段階評価

○保育者

☆関係者

●課題

観 点	短期目標	自己評価	保護者評価	評価及び意見の概要
保育・幼児教育の充実	健康な体づくり	3.2	3.8	<p>○発達段階やクラスの実態に応じた育てたい力を明確にし、環境を整えることに努めた。元気タイムや様々な運動遊具を使った体を動かす遊びを継続して行うことで、子ども達にさらにやってみたいという気持ちを育むことができた。</p> <p>○外部講師による運動遊びやリトミックで学んだことを日々の保育活動に取り入れ、継続的に取り組むことで、子ども達はできることが増え、達成感につながった。</p> <p>☆体力向上だけでなく、考える力や協力する姿勢を育む体づくりがされている。</p> <p>☆体を動かすことは、脳の成長にもつながる。多様な動きを身につける遊びをしてほしい。</p> <p>●時間と場所の確保が難しい時もあった。学年間で話し合い、園内の環境を有効に使っていきたい。</p>
	社会的発達	3.1	3.8	<p>○幼児クラスでは、サークルタイムを取り入れ、互いの思いに気付き考えることができた。また、チャレンジカードで挑戦したりできた達成感を味わったりしながら、お互いに喜びを感じることができた。未満児では、ままごとや体操など保育者や友達との関わりが生まれやすい遊びを積極的に取り入れ、人と関わる楽しさが十分に感じられるよう努めた。</p> <p>○子どもがうまく言葉で表現できない時にもゆったりと寄り添って思いを引き出すようにし、保育者が子どもの思いを代弁することで、思いが伝わる喜びを感じられるようにした。</p> <p>☆保育室は温かな親しみとくつろぎの場になっており、子どもが自分の思いや考えを安心して伝えることができるような配慮が感じられる。</p> <p>☆子ども同士が意見を伝えあう時間を設け、人と関わる楽しさや協力する喜びを味わうことができるようにしているところがよい。</p> <p>●トラブルが起きた時は子どもの心が育つ大切な機会と捉え、大人の価値観で解決を急ぐことなく、一人一人の思いをじっくり聞いていくことを大切にしていきたい。</p>
	精神的発達	3.2	3.7	<p>○子どもの主体性を意識した環境構成や援助を行った。また、子どもが自ら選んで遊ぶことや、継続的に遊ぶ中で遊びを工夫したり変化させたりすることができるように様々な用具や素材を準備した。</p> <p>○遊びの再構成がいつでもできるよう、可能な限り遊びの環境をそのままにすることで、子ども達は意欲的に遊びに取り組むことができた。</p> <p>☆多様な遊びを通して学ぶことができる環境が工夫されている。子ども達が主体的に選択し活動する中で、自ら考え試行錯誤しながら遊びを展開しているところが素晴らしい。</p> <p>●行事を普段の遊びの延長線と捉えて進めていくための話し合いや工夫をしていきたい。</p>
子育て支援の充実	地域保護者の連携	3.5	3.6	<p>○園だより・学年だよりを通して、園生活の様子や活動の意図を写真などを掲載しながら伝えた。また、送迎時にその日のできごとや頑張った様子などを保護者に伝え、子どもの育ちを共通理解できるよう心がけた。</p> <p>☆園から子どもの様子を聞くことは保護者にとって子どもの成長を知ることができる大切な時間だと思う。</p> <p>☆保育のねらいや意図を積極的に発信することで、家庭と連携しながら子どもの成長を支える体制づくりができていることは素晴らしいと思う。</p> <p>●延長保育利用児の保護者とは会話をする機会が少なくなる。延長保育担当になったときに意識して日ごろの様子を伝えるようにしているが、工夫が必要である。</p>
資質・専門性の向上	研修・研究	3.2	3.7	<p>○園内研修だけでなく、普段から環境や援助について職員間で語り合う時間を設ける工夫をする。</p> <p>○園内研では互いの保育を見せ合い、それぞれに課題をもって話し合いを行うことで、自分の保育と比較して考えたり、次の日の保育に取り入れたりすることができた。</p> <p>☆子ども一人一人の話に丁寧に耳を傾け温かく関わる姿から、専門性向上への意欲の高さが感じられる。職員全体でより良い保育を目指す姿勢が、園全体の安定した保育環境に繋がっていると思った。</p> <p>●公開保育は全職員が見ることは不可能なため、動画撮影を行うが、動画だけでは十分に様子がわからないこともあり難しさを感じた。</p> <p>●子どものエピソードや育ちについての話し合いから、その育ちにあった環境や援助の工夫についての話し合いへと内容を深めていきたい。</p>

【次年度に向けて】

- ・体力向上だけでなく、考える力や協同性を育む活動として、体を使う遊びが十分できるよう、学年間で話し合い、園内環境の使い方を工夫する。
- ・活動中の子どものつぶやきに丁寧に耳を傾けることで、遊びのねらいを意識したサークルタイムを行い、活動を園児と共に作り上げていくようにする。
- ・行事の在り方について再検討を行い、普段の遊びや学びにつながる活動、子どもの育ちに有意義な行事となるようにする。
- ・保護者との話し合いをさらに大切に。送迎時に会うことが少ない保護者とは特に、園の様子を伝えたり子どもの育ちを共有したりする機会を意識的にもつようにする。